

食道がん

FP(フルオロウラシル+シスプラチン)療法+RT(放射線治療)

			Day	1	2	3	4	5
フルオロウラシル	700mg/m ² 点滴静注	24時間持続静注		●	●	●	●	●
シスプラチン	70mg/m ² 点滴静注	60分		●				
RT	2Gy/Fr/day(計60Gy)							

28日ごとにくりかえす

制吐療法

パロノセトロン+デキサメタゾン+アプレピタント

投与基準

副作用による減量基準

—

肝機能による減量基準

—

腎機能による減量基準

米国添付文書参照

シスプラチン	Ccr(mL/min)	>50	100%
		10-50	75%
		<10	50%

シスプラチン	Ccr(mL/min)	60~46	25%減量
		45~31	50%減量
		<30	中止

食道がん

FP(フルオロウラシル+シスプラチン)療法

			Day	1	2	3	4	5
フルオロウラシル	800mg/m ² 点滴静注	24時間持続静注		●	●	●	●	●
シスプラチン	80mg/m ² 点滴静注	60分		●				

21日ごとにくりかえす

制吐療法

パロノセトロン+デキサメタゾン+アプレピタント

投与基準

副作用による減量基準

—

肝機能による減量基準

—

腎機能による減量基準

米国添付文書参照

シスプラチン	Ccr(mL/min)	>50	100%
		10-50	75%
		<10	50%

シスプラチン	Ccr(mL/min)	60~46	25%減量
		45~31	50%減量
		<30	中止

食道がん

DTX(ドセタキセル)療法

			Day	1	8	15	22
ドセタキセル	70mg/m ² 点滴静注	60分以上		●			

21日ごとにくりかえす

制吐療法などの前投薬
デキサメタゾン

投与基準
ドセタキセル 好中球数 < 2,000/mm³ で投与延期

副作用による減量基準
ドセタキセル 好中球減少(500/mm³未満)・血小板 < 55mg/m²
高度な過敏症 中止
末梢神経障害Grade3以上 中止

腎機能・肝機能による減量基準
ドセタキセル 血清ビリルビン > 基準値上限 中止
AST,ALT > 基準値の1.5倍 中止

食道がん

mDCF (ドセタキセル+シスプラチン+フルオロウラシル) 療法

			Day	1	5	15	22
ドセタキセル	60mg/m ²	60分		●			
シスプラチン	6mg/m ² 点滴静注	60分		→			
フルオロウラシル	350mg/m ² 点滴静注	24時間持続静注		→			

21日ごとにくりかえす

制吐療法

デキサメタゾン

投与基準

ドセタキセル 好中球数 < 2,000/mm³ で投与延期

副作用による減量基準

ドセタキセル 好中球減少 (500/mm³未満)・血小板 < 55mg/m²
 高度な過敏症 中止
 末梢神経障害Grade3以上 中止

肝機能による減量基準

ドセタキセル 血清ビリルビン > 基準値上限 中止
 AST,ALT > 基準値の1.5倍 中止
 かつALP > 基準値の2.5倍

腎機能による減量基準

米国添付文書参照

シスプラチン	Ccr(mL/min)	>50	100%
		10-50	75%
		<10	50%

シスプラチン	Ccr(mL/min)	60~46	25%減量
		45~31	50%減量
		<30	中止

食道がん

ニボルマブ単独療法

			Day	1	8	15
ニボルマブ	240mg 点滴静注	30分以上		●		●

14日ごとにくりかえす

①PD(増悪)まで

②12か月間まで

4週ごとに480mgを投与することもできる

①がん化学療法後に増悪した根治切除不能な進行・再発の食道がん 二次治療以降

②術前補助療法により病理学的完全奏効(pCR)が認められなかった食道がん

制吐療法などの前投薬

ポララミン 5mg 静脈内投与(2回目以降は省略可能)

投与基準

副作用による減量基準

—

肝機能による減量基準

—

腎機能による減量基準

—